

熊大通信

KUMADA TSUSHIN

Jan 2004

Vol.11



特集

高齢社会を支える まちづくり

～深まる大学と自治体の連携～



熊本大学は、4つのことに全力を投入します！

- Upgrade 未来を生き抜く人材の育成
- Unique 新たな知的価値の創造
- Union 地域に根を地盤を築く
- Universal 高学歴教育と国際的視野

CONTENTS

<目次>

知と社会

Vol.11

高齢社会を支えるまちづくり

～深まる大学と自治体の連携～

P.1

熊本大学に聞いてみたい!!

～新しく設置された医学部保健学科を訪ねて～

P.6

熊大群像

「伝統俳句で自然や他者との豊かな関係を詠む」
熊本大学法学部教授・附属図書館長 岩岡 中正

P.8

OB・OG訪問

「いろいろな人の意見を聞き自分の人間性を高めたい」
熊本市立西原中学校 澤村 美穂さん

P.10

国際交流事情 ～国際総合大学としての熊本大学～

～日本を飛び出して、世界を体感する～
教育学部4年・二宮 健吾さん、文学部4年・鳴神 佳子さん
理学部4年・伊藤 美希さん

P.12

熊大INFORMATION

P.14



熊本大学長

崎元達郎

新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

いよいよ本学が国立大学法人熊本大学となる年明けを迎え身の引き締まる思いであります。明るさの見えない経済状況、行財政の構造改革の中の厳しさ、困難さは大学にとっても例外ではありません。

本学では、国際水準の教育による人材育成と高度な学術研究、先端医療、地域医療を実施し、また、科学技術創造立国、知的財産立国を支える為に、より良い熊本大学を創るべく全構成員が一致協力して努力していただいております。深く感謝いたしております。

その結果として、昨年は秋山自然科学研究科教授をリーダーとする拠点研究プロジェクトが21世紀COEプログラムの「その他工学」分野に関する事業として採択されたのをはじめとして、地域貢献特別支援事業、知的財産推進本部事業、特色ある大学教育支援プログラム（教育COE）など、文部科学省関連の競争的資金はすべて獲得することができました。昨年末の平成16年度予算内示で設置を認められました法曹養成研究科（法科大学院）と医学部保健学科では、この4月より新入生を迎えることとなります。

法人化に際しての私の基本的な考え方を申し上げますと、
・学問の自由や大学の自治の理念を踏まえ、自主的・自律的な運営を確保すること。
・国際水準の人材養成と知の継承、新たな知的価値の創造という大学の使命を確実に果たし続けることによる社会貢献
・教育の機会均等、基礎研究の充実、先端医療、高度地域医療の継承など競争的状況や経営になじまない部分を重視し守ること。
・地域に根ざしつつ、世界に発信することができる特長ある大

学を目指すこと
・教職員としての意識を高め、意欲や夢を持って楽しく働ける大学を目指すとともに学生本位の運営を心がけること。
以上の5点であります。
私共は一人ひとりの意識改革による大学改革の推進と競争的環境の中での国立大学法人熊本大学の更なる発展に努力する所存です。
年頭にあたり、2003年の輝かしい成果を踏まえて、2004年が更なる発展の年となるよう、学内外の関係各位のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

高齢社会を 支えるまちづくり

～深まる大学と自治体の連携～

急速に進む少子高齢化や、地域社会の課題が山積する中で、
大学にも新たな役割が求められつつある。教育・研究のみならず、
地域のシンクタンクとして、より具体的、実践的な活動をしていくことだ。
熊本大学は、6年前から高齢社会の学際的研究に着手し、
現在文部科学省の支援する「地域貢献特別支援事業」を進めている。
この事業は、国立大学の人的、物的資源や総合力を活用して、自治体と大学が、
地域の課題解決のため互いに知恵を絞り一体となって取り組む事業である。
地方の自立の時代、大学はどんな貢献ができるのか。
全国に先駆けたその取り組みが、いま大きな注目を集めている。

地域と連携し学際的プロジェクトを展開

平成14年、文部科学省の支援を受けた「熊本大学地域貢献特別支援事業」のひとつとして「高齢者を支えるまちづくり支援事業」が動き始めた。このプロジェクトは、健康・福祉からまちづくりまでを含めた政策モデル研究の取り組みで、熊本県上益城郡甲佐町をモデル地区として、平成16年度までの3カ年計画で進められている。

熊本大学では、平成11年度からジェロントロジー（老年学）の研究を発端に、高齢社会の抱える問題を学部、分野を超えて多角的に研究する活動を開始。平成12年には、地域にその成果を発信していくことを目的とした「熊本大学高齢者社会総合研究プロジェクト」をスタートさせた。このプロジェクトでは、熊大各学部による共同研究だけでなく、行政、マスコミなどからも運営委員を迎え、公開シンポジウムなどを開催。大学内においては、1年時の総合科目に「高齢社会どう変わる、どう生きる」というテーマで授業を展開するなど、さまざまな取り組みを進めている。

「今回の『高齢者を支えるまちづくり支援事業』も、このプロジェクトの一環をなすもので、かなり力を入れて学際的な取り組みを進めています。これまで各学部と自治体との連携はありましたが、これからは、自治体と大学が、組織的に共同事業を進める時代です」と語るのは、今回の事業の代表を務める医学薬学研究部の二塚信教授。

今回の事業では、6つの柱（表1）を設け、各学部が連携しながら研究活動が続け、最終的には具



Makoto Futatsuka

医学薬学研究部教授

二塚 信

体的な政策提言まで行うことを目的としている。

「お互いに情報を交換し討論しながらやっているので、研究者の視野も広がるし、専門性の分担により全体の研究効果も上がるはず。今回、学際的な共同研究の体制ができてきたので、今後いろいろな形で生かせるのでは」と、二塚教授はこの事業の意義を語る。

QOLの視点で、医療・保健・福祉の分野から

この事業の第一歩として走り始めたのは、医療・保健・福祉条件シミュレーションの研究調査だった。高齢社会においては、健康が暮らし全体、地域のあり方全体に関わる緊急な課題となるからだ。

このシミュレーションの目的は、「住む人の価値づけによるまちづくり」。住民自身に、自分たちの理想の町像を描いてもらい、その実現のための施策を総合的に研究していく。

そのために、まず行われたのが「フォーカスグループインタビュー」という手法による調査だ。

表1 高齢者を支えるまちづくり支援事業の6つの柱

	カテゴリー	担当部局
1	地域の立地・人口動態・産業／農業振興要因シミュレーション	法学部、文学部
2	自然環境保全・情報環境を含むまちづくりシミュレーション	大学院自然科学研究科、工学部
3	医療・保健・福祉条件シミュレーション	医学部、教育学部、大学院医学薬学研究部、医療技術短期大学部、日赤熊本管理センター
4	教育・文化条件シミュレーション	生涯学習教育研究センター
5	多様な居住・住居形態シミュレーション	大学院自然科学研究科、工学部、教育学部
6	政策選択シミュレーション	全メンバー

これは、いくつかの質問について自由に語ってもらうことで、住民の生の声を拾い、その後の調査や研究に生かしていくというもの。回答をあらかじめ設定したアンケートでは量的な傾向を知ることができるのに対して、この手法は、住民の意識や地域特性、地域の課題などを詳細に汲み取るのに効果がある。甲佐町では、5つの校区で、8～10名の健康推進員と呼ばれる地域の健康活動リーダーを対象に、町の保健師によるインタビューが行われた。

医学薬学研究部の上田厚教授らは、このインタ

ビューで出た意見を分析し、その地域が理想とする状態とその実現に必要な要素を「プリシード・プロセスモデル（みどりモデル）」という地域づくりのモデルの枠組みに形作っていく。「みどりモデルは、調査、計画、実施、評価をひとつの流れとして行うモデルです。調査段階から、実際にどれだけ成果が出たかまで検証できるのが大きなポイント。今までにない取り組みです」と、上田教授はこの取り組みに手応えを感じている。

このみどりモデルは、他のシミュレーションの研究でも使われ、今回の事業全体の基本情報ともなる。みどりモデル作成にあたって重要な視点となるのが、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の考え方だ。「QOLとは、一人一人が自分の与えられた人生をエンjoyするということ。それは、必ずしも医療の問題だけではなく、地域の環境や建物、道路、生活の中のあらゆるものが関係してきます。その中で、一人一人が、どう幸福を実現するかというのがテーマだし、住民自身がその自覚を持つる事業にする必要があります」と、上田教授は語る。



Atsushi Ueda

医学薬学研究部教授

上田 厚

このシミュレーションでは、今回、社会福祉法に基づき「地域福祉計画書づくり」と、国がすすめる健康づくり政策「健康日本21」の甲佐町モデルづくりを、具体的に政策提言していくこととしている。

高齢者の自立を支援する環境づくり

高齢者のQOLを生活環境の視点からアプローチしているのが、多様な居住・住居形態シミュレーションを担当するチームだ。

このチームの中で、高齢者の居住支援をテーマに活動する教育学部の鳥飼香代子教授らは、町の民生委員さんたちの協力を得て、全高齢者世帯に



フォーカスグループインタビューの様子

あたる600世帯で生活環境調査を行った。この結果、住居や庭などの居住環境と交流環境に非常に問題があることが分かった。

この解決のために、鳥飼教授らは住居や庭については県事業やボランティアの力を借りるなどして改善を計りながら『小規模・複合型・活動拠点（宅老所+作業所）』を提案している。これはコレクティブハウスを地域レベルに拡大させたものに、高齢者の所得を少しでも上げるための作業所をリンクさせたものである。「コレクティブハウスとは、個人の自立した生活は守りながら、皆が集まれる空間をつくらうというものです。また、作業所とは、中山間地域で生産されたものの加工販売を行う所であり、初期運営資金として『中山間地域の直接支払制度』を活用できないか検討中です。」鳥飼教授らは、この地域コレクティブハウスを、町にたくさんできてしまった空き家を利用してつくることが考えている。また、支援が必要な高齢者が自立的に生活していくためには、行政が積極的に関与していく必要があることも分かった。



Kayoko Torikai

教育学部教授

鳥飼香代子

さらに鳥飼教授は、今回の事業を進める中で強く感じたことがある。それは、学生たちの力だ。研究活動の一環として、積極的に中山間地域への調査研究に出かける学生たち。それを大歓迎してくれる地域の高齢者たち。そこには、新しい交流が生まれている。「知識や技術だけでなく、若い人材を地域に直接投入できる。これも、これからの大学の役割かもしれません。どんなに自立意識が高い高齢者でも交流は求めてるんですね。自立型ではあっても、決して孤立型ではない。交流がその人の自立を支えることを私たちは忘れてはいけない」と、鳥飼教授は力説する。

情報を重ね合わせて複合的に活用

大学院自然科学研究科の位寄和久教授も、多様な居住・住居形態シミュレーションをすすめている。この研究の特徴は、まちづくり全体の中に高齢者施設を位置づけた点だ。シルバーハウジングと呼ばれる高齢者専用住宅を、子どものいるような



Kazuhisa Iki
大学院自然科学研究科教授
位寄 和久

若年世帯と混在させ、老人ホームや公共施設など近隣施設との連携も視野に入れた計画を立てている。また、これと併せて、町から具体的に要請のあった町営住宅の計画も進めている。

「これらについては、若年層に対しても居住環境についてのアンケートを行っています。フォーカスグループインタビューのデータなども入れ、またこちらのデータも他の研究グループに渡してお互いに情報交換をしています」。

これまで、行政とも連携しながら数々の都市計画や住宅計画のプロジェクトに参加してきた位寄教授は、「この事業がこれまでと大きく違うのは、施設をどう建てるかという以前に、みどりモデルのようなヘルスプロモーションプランがあつて、では、何が必要かという段階へ進むところです。自治体がシルバーハウジングを作る場合も、自治体

の意向を受けて設計事務所がアイデアを出すというやり方が主流。私もこれまでは企業といっしょにやるが多かったのですが、こういう試みは初めてです」と、学際的な取組みに可能性を感じている。

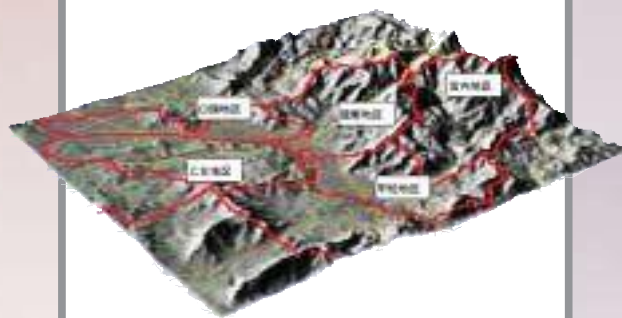
また、位寄教授はGIS（地理情報システム）というコンピュータシステムを使って、甲佐町の地形や主要な施設の分布などをデータ化している。「これによって、例えば一定の範囲にどのくらいの人口があるかとか、その人口に対して施設の分布が適当かとか、あるいは、傾斜の具合によって居住困難度はどれくらいかといったようなことが分かります。例えば、鳥飼教授らが実施した高齢者世帯調査の結果を重ねれば、高齢者の分布状況も一目で分かるし、空き家の調査もすすめていますから、どの空き家がコレクティブハウスに適当かといった提

主要施設分布地図



● 教育施設 甲佐町の地形をもとにした立体地図。
■ 福祉施設 甲佐町の中でも平野部と山間部ではそれぞれ異なる問題を抱えており、この地図
▲ 観光施設 に様々な調査結果データを重ね合わせる
■ 商店街 ことで、より具体的な支援が可能になる。

3Dベースマップ



案もできるわけです」。これから他グループの調査結果もこのデータに入れ込み活用していく考えだ。

新しいまちづくりの起爆剤に

今回の取り組みのフィールドとなった甲佐町の人々はどうとらえているのだろうか。

甲佐町健康福祉課高齢社会福祉係の一圓秋男係長は、「全ての町民が安心して暮らせるユニバーサルデザイン的なまちづくりが、私たちの目指すところ。行政も、今までは横のつながりが薄く、他分野にはなかなか踏み込めませんでした。これからは連携し効率を高める必要があります。熊大の協力を得てつくる今回の地域福祉計画も、関連課が集まって検討し、いい計画にしていくつもりです」と、大学との連携による総合的なまちづくり計画に期待を寄せている。

フォーカスグループインタビューを手掛けた保健師の濱妙子さんはこう語る。「今までは検診結果や医療費などの分析を基に、疾患対策を中心に



Akio Ichien

甲佐町健康福祉課係長

一圓 秋男

した健康計画を作っていました。今回熊大の協力を得たことよって、住民の声を生かしたまちづくりができます。行政では、福祉計画や健康計画などが部署ごとに作られますが、対象者は同じ町民。実際には、みんな生活の中で、病気をしたり、元気がったりするわけですから、本来は行政の施策も関連づけられているべきなんですよね。」

また、現場でQOLを視点とするまちづくりの必要性を実感している濱さんは「動けなくなった高齢者を、どう周りが支援するかが一番の課題」と語る。「掘り起こせば、住民の力は、まだまだいっぱいあるはず。地域の人たちをもっと支援していきたい」と、今後に意欲を燃やしている。

また、一圓さんも、「これからは地域がネットワークを組んでやっていく必要があります。それには、行政が情報を提供し、住民に参加意識を持ってもらうことが一番。今回の大学との共同事業により、やっと、地域政策づくりになせ自分たちの参加が必要なのか町民自身が気づき始めました。これからが本番です」と、厳しい地方の時代に、知恵とマンパワーを持ち寄る大切さを痛感している。

学部の垣根を超え、行政の縦割りの垣根を超え、動き始めた熊本大学と自治体との連携事業。今回の取り組みには地域支援事業のパート



甲佐町グリーンパルで行われたグラウンドゴルフ大会の様子。健康促進と地域住民の交流を目的に開かれています。とても賑やかな笑い声があふれていました。

ナーである熊本県も大いに注目している。全国平均より5年も早く高齢化が進んでいる熊本。モデル地区で成果が上がれば、他の自治体にも応用が可能となるからだ。熊大とさまざまな自治体の共同による研究がすすみ「熊本モデル」が全国に発信されることを期待したい。



Taeko Hama

甲佐町健康福祉課保健師

濱 妙子



『高齢社会 どう変わる、どう生きる』
一塚 信／嵯峨 忠「編著」
九州大学出版会



熊本大学に聞いてみたい!!

新しく設置された医学部保健学科を訪ねて

平成15年10月1日から熊本大学医療技術短期大学部と
 教育学部特別教科(看護)教員養成課程が統合し
 新しく医学部保健学科としてスタートしました。
 そこで、今回の「聞いてみたいシリーズ」では、
 新学科の特色を調査するため高校生3人が
 医学部保健学科を訪ねました。



- (左から)
 学科長
 ひらやまきみこ 平山紀美子 教授
 看護学専攻
 はっとりしんざぶろう 服部新三郎 教授
 放射線技術科学専攻
 まつもとまさのり 松本政典 教授
 検査技術科学専攻
 あへまいちろう 安倍紀一郎 教授

平山 四年制の学科になることで一番変化することは、ゆとりを持った教育ができるようになること、より高度なレベルの教育が可能になり、現代医学に対応できる学生を世の中に輩出することができるようになることです。また、4年生大学になると学士の資格が取得できるので、大学院に進むことが容易になり、今まで以上に研究者への道が開けることになるでしょう。そして、熊本大学という総合大学の学科になることにより、いろいろな学部 of 学生たちと教養科目を一緒に学ぶことで交流が増え、他の分野を勉強している学生と知り合える機会が増えることも良いことだと思っております。

医技短から医学部保健学科
 になって変わることは何で
 ですか？

鳥羽瀬さんからの
 質問

藤本君からの質問

国家試験の合格率と就職率の状況は？

熊本大学医学部保健学科の特色を教えてください。

平山 医技短の昨年の国家試験では受験者の約90%と高い水準の合格率でした。また求人も非常に多く、就職率はほぼ100%でした。また、大学院への進学が容易になったことで、これからは仕事の幅や選択肢が広がります。

鳥羽瀬さんからの質問

服部 熊本の医学部保健学科は、全国でも数少ない「看護教育学」の講座を持つ大学です。それによって、より確実な充実した教育を行うことができます。多くの看護系大学も科目の中に「看護教育学」を位置付けていますが、大学院を除いて学部教育に講座を持っているところはほとんどありません。

安倍 特色としては、卒業研究としてリサーチトレーニングを取り入れていることが挙げられます。例えば、卒業後、病院に勤める人は、病院業務などを実際に体験し、その中からテーマを見つけて研究を行います。この取り組みは、各自の進路先における仕事を学生時代に体験することにより、就職後の仕事によりスムーズに行えるという効果を狙っています。また、同じ専攻の学生だけではなく、医学部全体の様々な学生が協同し、チーム医療実習を行うことも特色のひとつです。

今回の体験者



熊本県立熊本西高等学校2年生
とばせ みなお
鳥羽瀬 未来央さん
看護学専攻は看護師になるための勉強をするところだと思ってたけど、助産師や教員にもなれると知って、さらに魅力を感じました。



熊本県立熊本西高等学校2年生
おがた ゆうき
尾形 祐樹さん
放射線技師の技術が、医療の現場だけではなく、様々な分野で使われていることを先生方から聞いて、大変興味を持ちました。



熊本県立熊本西高等学校3年生
ふじもと たかひろ
藤本 隆寛さん
保健学科になって研究者としての道が開けたという先生方の話を聞いて、私も研究の道に進んでみたいと思いました。

尾形君からの質問

取得できる資格にはどんなものがありますか？



大きな機械だな～

これは検査の機械かな？



ん？赤ちゃん



松本 放射線技術科学専攻では、病院などで働く診療放射線技師の受験資格が取得できます。これは非常に高度な技術の免許であったり、取得後はエックス線作業主任者免許などの試験が免除になったり、医療以外の放射線関係工業界をはじめ、様々な分野の資格の取得にもつながります。

服部 看護学専攻では、看護師や保健師の国家試験の受験資格が得られます。また、助産の講座を選択した場合には、助産師国家試験の受験資格も取得できます。さらに看護教育学講座を選択すれば、高等学校教諭一種免許状(看護)が取得できます。また、卒業後に国家試験を受けて保健師資格を取得すれば、養護教諭2種免許状が取得できるので、教諭になるという選択肢も増えることとなります。

安倍 検査技術科学専攻では、病気の診断や健康状態の把握に必要な検査を行う臨床検査技師の国家試験受験資格が取得できます。

熊

大

群

像

熊本大学法学部教授・附属図書館長

岩岡 中正

象の耳より春風となり来たる

伝 統 俳 句

で自然や他者との豊かな関係を詠む

熊本でも有数の俳人の一人として知られる岩岡教授。俳誌「阿蘇」の主宰をはじめ、伝統俳句を発信するための様々な活動を行っています。日本古来の文学である俳句の魅力や独特の世界観について語っていただきました。

趣味が高じて
「ホトトギス」の同人に

「私にとつて俳句とは、自己表現のひとつであり、今では体の一部分になっています」と岩岡教授は話します。週末になると、熊本市近郊の野山や史跡など、様々な場所に吟行に出かけるのが習慣になっているそうです。

俳句を始めたのは大学生の頃。それまで、短歌づくりをしていましたが、俳句をしていた母親の影響を受け、夏休みに帰省すると、時々句会に参加して俳誌「阿蘇」の人たちと出会い、お付き合いをするようになりました。

「大学は法学部でしたが、本当は文学部に進みたかったのです。ただ、両親が2人とも文学部出身だったので、法学部の方が就職するとき有利ではないかと言われました。だから、文学は趣味でというつもり

だったのですが……。その後、ますます俳句づくりに傾倒し、35歳の頃には明治時代から続く俳誌「ホトトギス」の同人になりました。

内面の豊かさを表現する文学

「俳句は初心者でも簡単に作ることができます。また、感動を自由に表現できて、日本古来のリズムである5・7・5は日本人にとって、とても馴染みややすいようです。季節のある日本は、言語の豊かな国、言葉のにぎわう国。その言語文化のひとつが俳句なのです。入り口は簡単でも奥が限りなく深く、内面の豊かさを表現できる伝統的な日本の文学なので、その魅力を語ります。

過疎地の村などに好んで吟行に出かけるという岩岡教授。「人が住んでいる気配が好きで、人と人との絆が残っているのを感じ取り、それを俳句で表現しています。車の中から見ているだけではなく、外に出て、自然に近づき、一体化するということが大切。時には自分を失うほど、創作にのめりこむこともあるそうです。また、俳句は専門の研究テーマである政治思想史と無関係ではないと

立春の一気に上がる昇降機

言います。ヨーロッパ、特にイギリスのロマン主義の政治思想、つまりワーズワスやシェリーといった詩人たちの思想を研究し、のちに「イギリス・ロマン主義政治思想研究」で博士号を取り、著書も出版しました。このロマン主義を研究した時、20世紀から21世紀への時代転換の中で、これからどう生きるべきか、政治や思想を支える価値観について考えるようになりました。

一方、日々精進していた俳句も、現代俳句ではなく、*1花鳥の中でこれと共生する詠み方をする新しい俳句としての伝統俳句でした。「近代化によって失った自然や他人との豊かな関係を大事にしなければなりません。もともと人間は自然の一部なのです。その関係を取り戻す手段のひとつが伝統俳句だと思っています」。

伝統俳句の発展に力を注ぎたい

現在、熊本で最も大きく伝統あ

る俳誌「阿蘇」の主宰を務める岩岡教授。地域性や個性を持った俳誌にするために次々と新しい企画を考え、活動しています。「現在、日本古来の豊かな言語文化が崩壊していると感じています。それに俳句の世界も高年齢化して、存続の危機を感じています。だからこそ、これからはもっと若い人たちに俳句の面白さを学んでもらい、モノを作る喜びを楽しんでほしいと思っています」。

今後も伝統俳句の発展のため、より優れた作品を世の中に発信していかなければならないと語る岩岡教授の言葉には、強い熱意が込められています。

*1花鳥諷詠：高浜虚子が昭和初期に唱えたホトトギス派の主張。四季の変化によって生ずる自然界の現象およびそれに伴う人事界の現象を無心に客観的に詠むのが俳句の根本義であるとするもの。

春の海かく碧ければ殉教す

あお



岩岡教授の俳句に関する著書や作品が掲載されている句集。



PROFILE

岩岡 中正(いわか なかまさ)
熊本大学法学部教授。附属図書館長。著書に『詩の政治学』他多数。1995年朝日俳壇賞受賞。現在は、日本伝統俳句協合理事や俳誌「阿蘇」の主宰を務める。熊本県出身。

熊本市立西原中学校 澤村 美穂さん

いろんな人の意見を聞き 自分の人間性を高めたい

熊大教育学部を卒業後、看護教員を目指して

看護師の仕事に情熱を傾けていた澤村美穂さん。

しかし、健康の原点は子ども時代にまで遡ると実感し、一転して養護教諭を志望。県職員の採用試験に挑戦し、見事に合格を果たし養護教諭の道を歩み始めています。

看護教員志望から養護教諭へ

「早くから養護教諭を目指されたのですか？」

澤村 学生時代は看護教員になるのが目標でした。特別教科(看護)教員養成課程では、高校の衛生看護科で教える看護教員

のほか、看護師、養護教諭、中学校・高校の保健の教諭と四つの資格が取れるんです。学校によつては看護教員になるには臨床経験が5年以上必要などところもあるのですが、卒業後は熊本大学医学部附属病院に看護師として勤務しました。

「はじめは看護師としてのスタートだったわけですね。」

澤村 最初の年は仕事の厳しさを知って、戸惑いの連続でしたが、2年目からは充実感とやりがいを感じられるようになりました。その中で、病气と生活習慣が密接に関係しており、子ども時代から健康への意識が必要だと感じるようになり、看護で学んだことが教育の現場で活かせたいと思うようになりました。

「それで、改めて養護教諭を志望されたのですか？」

澤村 看護師の仕事も好きだし、面白くなってきた時期だったので、すごく迷いました。周囲に相談したら「新しいことをするなら早い方がいい」「二度しかない人生だからやっただ方がいい」と言われて退職を決心し、県職員の採用試験に向けて勉強を始めました。



特別教科(看護)教員養成課程の同級生で撮った卒業記念写真。

子どもたちが元気だと ほっとします

—実際に養護教諭となつての感想は？

澤村 思っていた以上に忙しいです。保健室には、様々な訴えを持つて多くの子どもたちが来室します。一人一人の解決すべき課題が違いますので、関わる私の受け止める力が問われることにもなります。他にも、保健委員会の活動や教室での健康に関する授業、事務など、日々沢山の仕事に追われています。西原中は生徒数が千人を超えるので、養護教諭も2名配置されていて、先輩に支えられながら何とかやっています。

—今の子どもたちには、いろいろストレスがあるようですが。

澤村 勉強、友人関係、部活動、家庭環境と背負っているものが大きすぎるようです。それに対して自分ごとこまでかかわれるのかと戸惑うこともあります。悩みを打ち明けに来る子どもたちは真剣なので、こちらも言葉の使い方一つとっても慎重になります。

—年齢が近い分、お姉さんのような存在では？

澤村 そうあってほしいですね。生徒にも「相談内容はだれにも言わな

いけど、命にかかわることだけは別だからね」と話しています。

—どんなところに、やりがいを感じますか？

澤村 もともと人と接する仕事をしたいと思っていたので、子どもたちの話を聞いたり、元気にしている様子を見たりするとほっとします。それだけで幸せを感じることができません。今の子どもたちが思っていること、考えていることは私が中学生の頃とそう変わらないなあと感じます。

相談できる家族や周囲の存在

—ご自分のストレス解消法は何をされていますか？

澤村 家族と話すことですね。姉も

教員をしていて、教育学部に進んだ

のはその影響がありましたし、今でもよく相談します。父は教育者ではないですが、「自分のしたいことをしなさい」と言って話を聞いてくれます。毎日のように電話があつて、けっこう父と話すことが多いですよ。

—何かリフレッシュ法はありますか？

澤村 週3・4回弓道場へ通っています。別にうまくはないんですが、世代も職業も異なる方たちが来られるので、学校とはまた違った話が聞けて勉強になります。

—熊大の後輩にアドバイスはありますか？

澤村 私の学生時代は実習で手いっぱいでしたが、後輩の皆さんにはよ

く学びよく遊び、いろんな人とかかわり経験を積んでほしいですね。学生時代の仲間は、学科が少数者だったこともあって団結力が強くて、今でもよく電話して励まし合ったりしてるんです。恩師も迷ったときには相談にのってもらったり、アドバイスを受けたりと心強い存在です。

—今後の抱負は？

澤村 まだまだ、養護教諭としての勉強がたくさんあります。学校関係の研修はもちろん、読書をしたり、医療や健康問題などさまざまなジャンルのセミナーに参加したりしたいです。できるだけ多くの人に会い、いろんな意見を聞き、もっと自分の人間性を高めていきたいと思っています。



先輩の永野先生からアドバイスを受けながら頑張っています。



PROFILE

澤村美穂(さわむら・みほ)
平成11年、熊本大学教育学部特別
教科(看護)教員養成課程卒。同年、
熊本大学医学部附属病院第一外科
に看護師として勤務。13年、同退
職。15年4月から熊本市立西原中
学校に養護教諭として勤務。趣味
は弓道。

人と接する仕事をしたかった



Kengo Ninomiya

留学先/アメリカ・モンタナ大学

PROFILE

二宮 健吾(にのみや・けんご)
平成 14 年 9 月から平成 15 年 5 月まで、アメリカ合衆国のモンタナ大学に留学。現在は教育学部の 4 年生。

二宮さんは、「実際にアメリカを訪れて学びたい」という長年の夢を実現させました。
文学部英文学科に在籍する鳴神さんは、「留学



現地留学生で作ったサッカーチーム「Crazy Cosmopolitans」。チーム結成後、初勝利の記念写真。モンタナ大学郊外グラウンドにて。

現在、世界12カ国、18大学と大学間交流協定を結んでいる熊本大学。平成15年度はこの交換留学制度を利用し、約20名の学生が海外の大学へ。今回は帰国したばかりの学生3人に、海外での学生生活で感じたこと、学んだことについてお話をうかがいました。

国際交流事情
～国際総合大学としての熊本大学～

それぞれの期待を抱いて海外へ

二宮健吾さん、鳴神佳子さん、伊藤美希さんは、平成14年から約1年間に、交換留学制度を利用してアメリカのモンタナ大学、イギリスのダラム大学、ドイツのザールラント大学にそれぞれ留学しました。

以前から黒人公民権運動で知られるキング牧師やアメリカが絡んだ過去の紛争に興味があったという二宮さんは、「実際にアメリカを訪れて学びたい」という長年の夢を実現させました。
文学部英文学科に在籍する鳴神さんは、「留学

去の紛争に興味があったという二宮さんは、「実際にアメリカを訪れて学びたい」という長年の夢を実現させました。
文学部英文学科に在籍する鳴神さんは、「留学

というの自分から遠い存在でしたが、大学2年生の時にイギリスのダラム大学から訪れた交換留学生の学生チューターをしました。彼女からは学ぶことが多くて、今度は私が留学してみたいと思いました」と、その学生と同じダラム大学を希望しました。

一方、伊藤さんは「最初は他の2人とは違い、留学したいという人の気持ちが全然理解出来ませんでした」と話します。そんな気持ちを変え、友人と一緒に訪れたアメリカ旅行でした。「旅行中、カナダに留学していた友人の家に滞在したので、様々な国の人たちと交流している友人や他の国の文化を知って、今までの自分の考え方が小さいなど感じたんです」。そして帰国後、交換留学制度が理学部を含めた全学部の学生が利用できるのを知り、留学

日本を飛び出して、
世界を体感する

教育学部4年・二宮 健吾さん／文学部4年・鳴神 佳子さん／理学部4年・伊藤 美希さん

することを決心しました。

積極的に挑戦することが大事

スポーツが好きな二宮さんは、バスケットボールやサッカーのチームに入り、「アメリカ人はもちろん、オランダやメキシコから来た留学生とも自然と積極的に交わるようになりました」。また、キング牧師のことをもつと勉強するために南部のアトランタに一カ月滞在するなど、大陸横断バスを利用して、アメリカの各都市を巡る旅にもチャレンジしたそうです。

※学生チューター制度…日本に来たばかりの留学生に、履修の仕方、生活習慣の違いや日本語などについて同じ学生の立場からアドバイスを行う制度

アメリカ・モンタナ大学





Miki Ito

留学先/ドイツ・ザールラント大学

PROFILE

伊藤 美希(いとう・みき)
平成14年4月から平成15年3月まで、ドイツのザールラント大学に留学。現在は理学部の4年生。



現地の学生とキャンプに行ったときの様子。ちょうど「ジャガイモ祭」が開かれていました。



ドイツ・ザールラント大学



イギリス・ダラム大学



一生の思い出になる、
かけがえのない体験

「私が滞在したダラムの中心部は、学生が多い平和な場所でした。思っていたより食べ物もおいしくて快適な学生生活でした。やっぱり実際に行ってみて良かったと感じています。鳴神さんはこの留学経験を通して、自分の専門分野をもっと勉強したい

伊藤さんが留学したザールラント大学は、フランスとの国境まで路面電車で20分の町にあり、ヨーロッパの多文化交流の拠点として世界中から学生たちが集まっています。「ドイツ語がほとんど分からなかったのに、全く話をしない日もありました」と留学当初の苦労を話します。でも、しばらくして、学生寮の同じフロアに住む様々な国の学生たちと仲良くなり、ドイツでの生活にも徐々に馴染んでいったそうです。

「自分が滞在中に起きたイラク戦争は、日本に対する見方を大きく変えたと言います。『各国からの留学生が自分達の意見を自由に話し合っているのに対して、自分は日本の政策と違う意見を持っていたのでなかなか自分の意見を話せませんでした。これからの日本に何が必要なのかを考

とと思うようになり、大学卒業後は大学院に進学する事を決めたそうです。また、二宮さんは今回の留学で、語学や研究テーマ以外にも多くのことを学んだようです。「まず、アメリカの学生は良く本を読むということ。そして、目的意識を持って行動しているのかなり刺激を受けました。また、英語を話せることは大事だけど、自分の個性を持ち、人の中に溶けこんでいく事がより大切だということも学びました」。また、アメリカ滞在中に起きたイラク戦争は、日本に対する見方を大きく変えたと言います。『各国からの留学生が自分達の意見を自由に話し合っているのに対して、自分は日本の政策と違う意見を持っていたのでなかなか自分の意見を話せませんでした。これからの日本に何が必要なのかを考

一方、滞在中にヨーロッパの国々を周った伊藤さんは、「気候によって人の性格が全然違ってくるんですよ。例えば、北欧の人に比べて、スペインやイタリアの人ってホントに陽気なんですよ」と、実際に様々な国の人々と触れ合えたことはとても貴重な体験だったと言います。

留学先で学んだり、感じたりしたことはそれぞれ違いますが、3人にとってかけがえのない経験になったようです。



Yoshiko Narukami

留学先/イギリス・ダラム大学

PROFILE

鳴神 佳子(なるかみ・よしこ)
平成14年10月から平成15年6月まで、イギリスのダラム大学に留学。現在は文学部の4年生。



クリスマスシーズンのダラムの街。冬休みにはイギリス人の友人宅で本場のクリスマスを経験しました。

1/31

12:30~17:00

医学部保健学科看護学専攻主催 講演会 高度先端医療における 看護の役割

—在宅への移行を支えるケアとは—

無料

●会場／熊本大学医学部保健学科
501教室

お問い合わせ

熊本大学医学部保健学科
宇佐美しおり

TEL・FAX 096-373-5470
E-mail:susami@hs.kumamoto-u.ac.jp

「知のフロンティア講座」

(時間 毎回14:00~15:30)

無料

1/24

第28回
「ねずみ；基礎研究からベンチャービジネスへ」

山村 研一 (副学長、発生医学研究センター教授)

2/21

第29回
「IT技術の教育への活用」

秋山 秀典 (総合情報基盤センター長)

3/20

第30回
「生活習慣病～予防と治療の最新事情～」

岸川 秀樹 (保健センター所長)

4/17

第31回
「現代美術—第二次世界大戦後の
美術界を導いた思想」

浅沼 敬子 (文学部講師)

お問い合わせ

熊本大学総務部総務課生涯学習係
TEL 096-342-3121 FAX 096-342-3110
E-mail:sos-syogai@jimu.kumamoto-u.ac.jp

1/22

1/29

2/5

天文学 ワンダー体験

無料

19:00~20:30

- 会場／くまもと県民交流館パレア9F
- 対象／一般(高校生~社会人を想定)
- 定員／45名

お問い合わせ

定員・実施要領：熊本県生涯学習推進センター
TEL 096-355-4312
講義内容：熊本大学総務部総務課生涯学習係
TEL 096-342-3121
熊本大学教育学部理科教育研究室
TEL 096-342-2537
E-mail:tsatoh@educ.kumamoto-u.ac.jp

1/23

フィリピンの聴覚障害教育 についての講演会

無料

18:00~19:30

講演者：マリア・テレサ・D・ラモス
教育学部教育学研究科(文部科学省教員
研修生：所属国立フィリピン聾学校)

- 会場／熊本大学くすの木会館レセプションルーム
- 対象／一般

お問い合わせ

熊本大学教育学部障害児教育学科 古田弘子研究室
TEL 096-342-2537
E-mail:fh91@educ.kumamoto-u.ac.jp

入試情報

(平成15年11月25日現在)

■大学院入試日程■

選 抜 区 分	願書受付期間	試 験 日
文学研究科(修士課程) 社会人を含む(第2期・春季日程)	16/1/19日~1/23日(金)	16/2/16日・17日(火)
教育学研究科(修士課程) 第2次	16/1/8日~1/14日(水)	16/1/30日(金)
法学研究科(修士課程) 社会人及び外国人留学生を含む(第2期)	16/1/19日~1/23日(金)	16/2/14日(土)・15日(日)
医学教育部(修士課程)《春季日程》	16/1/7日~1/14日(水)	16/1/26日・27日(火)
医学教育部(博士課程) 社会人を含む《春季日程》	16/1/7日~1/14日(水)	16/2/12日・13日(金)
薬学教育部(博士後期課程) 社会人を含む	16/1/22日~1/27日(火)	16/3/3日(水)
社会文化科学研究科(博士課程) 社会人及び外国人留学生を含む《春季日程》	16/1/19日~1/23日(金)	16/3/1日(月)
自然科学研究科(博士前期課程) 社会人を含む 第2次	16/1/8日~1/14日(水)	16/1/29日・30日(金)
自然科学研究科(博士前期課程) 外国人留学生	16/2/10日~2/13日(金)	16/2/26日・27日(金)
自然科学研究科(博士前期課程) 学部3年次を対象とする選抜	16/2/24日・2/25日(水)	16/3/4日・5日(金)
自然科学研究科(博士後期課程) 社会人を含む 第2次	16/1/19日~1/23日(金)	16/2/12日・13日(金)
法科大学院法曹養成研究科	15/12/15日~12/19日(金)	第1次選抜 1/24日(土) 第2次選抜 2/8日(日) 法律科目試験* 16/2/21日・22日(日)

*法科大学院の法律科目試験については、第2次選抜で合格し入学手続きを完了した者のうち、2年短縮コースを希望する者に課します。

■専攻科・別科入試日程■

選 抜 区 分	願書受付期間	試 験 日
特殊教育特別専攻科	16/2/10日~2/13日(金)	16/3/1日(月)
養護教諭特別別科	15/12/8日~12/12日(金)	16/1/9日(金)

■短期大学部入試日程■

選 抜 区 分	願書受付期間	試 験 日
助産学特別専攻	15/12/8日~12/11日(水)	16/1/8日(水)

●予定が変更されることもあります。ホームページ等でご確認下さい。

■学部入試日程■

	出願期間	試 験 日	合格発表
推 薦 (センター試験を課す)	1/19日 ~ 1/23日(金)	2/7日(土)	2/10日(火) 10時(発表・発送)
一 般 (前 期)	1/26日 ~ 2/4日(水)	2/25日(水) ~ 2/26日(木) (26日は教育学部の実技のみ)	3/7日(日) 10時(発表・発送)
一 般 (後 期)		3/12日(金)	3/21日(日) 10時(発表・発送)

お問い合わせ

熊本大学学生部入試課 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号
TEL 096-342-2146 FAX 096-345-1954
E-mail nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学ホームページ <http://www.kumamoto-u.ac.jp/univ-j.html>

海藻の森構想

本学教育学部浅川牧夫教授が提唱してきた「海藻の森構想」が基盤となり、「海藻」をキーワードに、環境に優しい富栄養化物質の生物学的回収法および海藻類をはじめとする海洋バイオマスの多面的な有効利用技術

の開発を目指す共同研究事業に、各方面からの期待が寄せられています。

これは、『文部科学省都市エリア産学官連携促進事業』に平成14年度採択された「熊本エリア事業」(ナノテク・材料)に引き続き、平成15年度は「熊本県南エリア事業」(予算規模1億円×3年)として熊本県を通じて申請し採択されたもので、八代市、水俣市及び芦北3町を対象地域として行われます。

この熊本県南エリア事業は、地域固有のバイオマス資源を活用した産業の高度化・高付加価値化並びに深刻化する海域の環境問題の解決に向け、浅川牧夫教授を統括とする共同研究事業と崇城大学岩原正宜教授を統括とした成果育成事業が連携して展開されます。

熊本大学教育学部 浅川牧夫 asakawa@gpo.kumamoto-u.ac.jp



平成16年1月1日より 医学部附属病院の診療科の名称が変更になりました。

医学部附属病院						
旧診療科名	部門名	新診療科名	旧診療科名	部門名	新診療科名	
第一内科	内科部門	呼吸器内科	小児科	成育医療部門	小児科	
第一内科・第三内科		消化器内科	発達小児科		発達小児科	
第二内科		血液内科	産科婦人科		産科・不妊科	
第三内科		膠原病内科	整形外科		整形外科	
代謝内科		腎臓内科	皮膚科	感覚・運動部門	皮膚科	
循環器内科		代謝・内分泌内科	眼科		形成・再建科	
神経内科		循環器内科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科		眼科	
第一外科		神経内科	歯科口腔外科		耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
第一外科・第二外科		外科部門	心臓血管外科	放射線科	放射線診療部門	放射線診断科
第一外科・第二外科			呼吸器外科	神経科精神科		放射線治療科
第一外科・第二外科	消化器外科		脳神経外科	脳・神経・精神部門	神経科精神科	
第一外科・第二外科	乳腺・内分泌外科		麻酔科		脳神経外科	
小児外科	小児外科				麻酔科	
第一外科・第二外科・小児外科	移植外科					
泌尿器科	泌尿器科					
産科婦人科	婦人科					

受付時間 ●新 来 午前8時30分～午前11時
 ●再 来 予約制です。診療予定時間前までに受付をお済ませください。
 ●休診日 土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)

熊本大学オン・エア



ラジオ講座
Pack' in Campus!!

FM中九州 毎週日曜日13:55～14:00

放送日	テーマ	担当講師
1月4日(日)	法科大学院いよいよスタート	法学部長 良永彌太郎
1月11日(日)	ねずみ;基礎研究からベンチャービジネスへ	副学長 発生医学研究センター教授 山村 研一
1月18日(日)	国境を越えた学びの支援	留学生センター長 檜山 隆
1月25日(日)	FAP研究の新展開(仮)	大学院医学薬学研究部講師 安東由喜雄
2月1日(日)	大学の地域貢献活動	副学長 工学部教授 平山 忠一
2月8日(日)	IT技術の教育への活用	総合情報基盤センター長 秋山 秀典
2月15日(日)	町づくり支援事業	医学薬学研究部教授 二塚 信
2月22日(日)	地域支援(熊本文化発掘事業)	文学部助教授 三澤 純
2月29日(日)	地域支援(地域産業支援)	大学院自然科学研究科教授 川路 茂保
3月7日(日)	生活習慣病一予防と治療の最新事情	保健センター所長 岸川 秀樹
3月14日(日)	リクラブ活動	学生サークル「リクラブ」 学生代表
3月21日(日)	地域支援(グリーンツーリズム活性化のために)	法学部教授 佐藤 誠
3月28日(日)	現代美術ー第二次世界大戦後の美術界を導いた思想	文学部講師 浅沼 敬子

平成14年度以降のテレビ講座・ラジオ講座(放送終了分)については、熊本大学生涯学習教育研究センターのホームページから視聴できます。
<http://www.lifelong.kumamoto-u.ac.jp/>

卒業生が薬学部へ3億円を寄附

熊本大学薬学部の前身である(官立)熊本薬学専門学校を昭和8年に卒業され、今年1月にお亡くなりになった宮本佳博氏の御遺族から、本学薬学部へ3億円の寄附の申し出があり、11月19日に贈呈式を行いました。



贈呈式では、故人の弟の宮本博氏から崎元学長に目録が贈呈された後、学長から同氏へ感謝状が渡されました。

さらに、小田切薬学部長からお礼の言葉が述べられました。

薬学部では、御遺族とも相談した結果、篤志を末永く心にとどめ、薬学教育研究の一層の発展に努めていくために「宮本記念館」を建設し、有効に活用させていただくことにしています。

アイルランド大使館からの図書寄贈

熊本大学ではこの度、在日アイルランド大使館からアイルランドの文化、歴史、言語、文学に関連する学術図書43冊の寄贈を受けました。これは、熊本大学の前身である第五高等学校でアイルランド出身のラフカディオ・ハーン(小泉八雲)が教鞭をとったこと、熊本大学学術資料調査研究推進室の重要な柱としてハーン研究が行われていることによるものです。

10月17日にはポドリグ・マーフィー駐日アイルランド大使が来学し、図書寄贈の贈呈式を行うと

ともに関係者との懇談及び学内の見学を行いました。贈呈図書は、附属図書館に備え付けて広く利用に供される予定です。





お薦めの一冊

『寺田寅彦随筆集』

寺田寅彦著 岩波書店、1947年



平山 忠一 副学長

高校教育から大学教育への転換が容易でなく自分を見失う時期があります。その時分に出会い、その後私に自分の足で歩く自信を与えてくれたのが「寺田寅彦随筆集」でした。当時、工業化学科におられた竹井教授が講義中に脱線して語った話の中に寺田寅彦が居たのです。「ある日、東大の構内を歩いているとガラスが割れる音があるので寄ってみると、ガラス板に物を投げてヒビの入り方を見てはまた繰り返している人が居て、変なことをする人がいるなあと思っていたが、その人が物理の寺田寅彦先生だった」と言う話でした。今で言えば「カオス」の研究であったのでしょうか。

当時、岩波書店から「寺田寅彦随筆集」が月2冊のペースで販売を始めていたので早速予約し読みふけりました。上のガラスのヒビの話も出てきて科学的解釈を試みていました。随筆には地震と発光、流言飛語と爆発現象、神話を科学的に考える、トンビの視力・臭覚などなど自然界の事象に目を向け、科学的にものごとを考えると民衆に呼びかけるものが多く、科学リテラシーが不可欠な日本にあってなおも暗闇に居るわれわれ現代日本人に示唆を与える書です。科学を志向する私に瞬時に入り込んだのが「科学に志す人へ」の一文でした。学生のみなさん、随筆はいずれも数ページの短いものですから時間つぶしに附属図書館で読んでみてください。



法科大学院開設のお知らせ

熊本大学法科大学院（大学院法曹養成研究科）は、21世紀のわが国の司法への期待を踏まえ、法理論と実務を架橋する教育を強く意識したプロセスとしての法曹養成教育を行い、豊かな人間性、幅広い教養、専門的資質・能力及び高い倫理観を備えた質の高い法曹を養成し、もって地域住民のリーガルサービスへの需要に応えます。

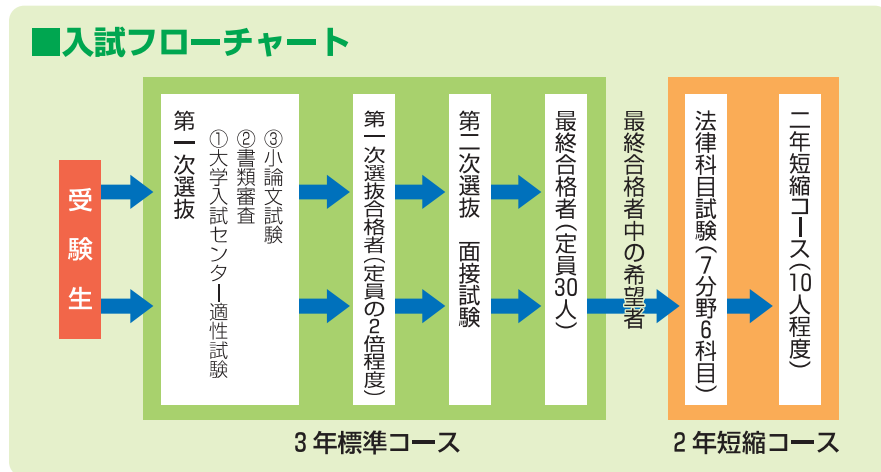
この使命を達成するため、国民の基礎的かつ普遍的な法的ニーズに的確に対応できるいわば「家庭医」としての能力に加え、「公共政策法務」、「高齢者福祉と財産管理」、「企業コンプライアンス」、「企業再生」といった新しい法的ニーズにも対応できる、いわば「専門医」としての能力をも備えた法曹を養成することを目指します。

●法科大学院ホームページ <http://www.kumamoto-u.ac.jp/lawschool/>

■入試日程

- 第1次選抜（小論文）▶ 平成16年1月24日（土）
- 第2次選抜（面接）▶ 平成16年2月8日（日）
- 合格発表 ▶ 平成16年2月12日（木）
- 入学手続期間 ▶ 平成16年2月17日（火）～
同年2月19日（木）まで必着
- 法律科目試験（2年短縮コース）▶ 平成16年2月21日（土）、
平成16年2月22日（日）
- 法律科目試験結果発表 ▶ 平成16年2月27日（金）

■入試フローチャート



編 集 後 記

■早いもので「熊大通信」の編集部会長を私がお引き受けして3年が経とうとしています。赤い縁取りに洒落たデッサンの表紙も、熊本大学の新たなイメージとして定着してきたような気がします。

この間大学を取り巻く環境も大きく変わりました。4月からいよいよ国立大学法人となり、新たな大学の時代が始まりますが、私達職員もこの熊本大学が「知」による多面的な社会貢献を果たしていくことができるような存在になれることを願っています。

広報委員会編集部では、これからも地域を拠点に国際的にも通用する教育・研究・地域貢献へ取り組む熊本大学の今を、ワクワクするような文章と絵でお届けしていきたいと考えています。毎号の編集会議では文章表現や写真・グラフなど細かな点まで議論し、多くの方に手にとって読んでみたいと思われる紙面づくりに努めておりますが、読者の皆様からの反響は私達にとって大事な評価であり、今後の編集方針の道しるべとなるものです。

どうぞご遠慮なく沢山のご意見をお寄せ頂きますようお願い申し上げます。

(編集委員：上野眞也)

編集委員

教育学部 助教授・塚本光夫

工学部 教授・大野恭秀

医学部保健学科 教授・宇佐美しおり

生涯学習教育 助教授・上野眞也
研究センター (部会長)

事務局／企画広報室
文責／編集部



表紙／板井 榮雄

熊大通信では、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

●宛先●

熊本大学総務部企画広報室
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号
TEL: 096-342-3119 FAX: 096-342-3007
shkhd@jim.kumamoto-u.ac.jp

新 聞 だ
見 熊 本 大 学

6/30

熊本日日新聞

11/23

熊本日日新聞

9/19

熊本日日新聞

11/24

熊本日日新聞

10/18

熊本日日新聞

11/1

熊本日日新聞



学ぶ喜びを、もう一度



授業開放

募集要項の請求は
3月から!!

熊本大学では、大学の授業を学生とともに受講する「授業開放」を実施しています。

これは、熊本大学が行う大学開放活動の一環で、各学部、大学院、大学教育研究センター及び医療技術短期大学部が開設している正規の授業の一部を開放し、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、地域社会と大学との連携をさらに深めようとするものです。

募集要項請求先・問い合わせ先

熊本大学総務部総務課生涯学習係

〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号

TEL.096-342-3121

FAX.096-342-3110

E-mail:sos-syogai@jimu.kumamoto-u.ac.jp

URL:http://www.lifelong.kumamoto-u.ac.jp/

受講資格 高等学校卒業程度以上の学力を有する方

開講場所 熊本大学各学部等

開講期間 前学期:4月～7月/後学期:10月～3月

募集期間 前学期:3月/後学期:8月

募集定員 各科目原則として5名以内

受講料 開放する授業科目によって受講料は異なります。詳しくは募集要項の「授業開放科目一覧」をご覧ください。

募集要項の請求方法 請求者の郵便番号、住所、氏名を記載し、200円切手を添付した返信用封筒(角型2号封筒:33×24cm)を同封し、請求してください。



印刷インキは大豆油インキを使用しています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています。